

5. 研修日記



本当だったら1日目。1日目の話は、前日の出来事を語らずには話がつながらないので、前日の様子からお知らせしたいと思います。成田空港でものすごい行列に並び、それぞれこれから行くマレーシアに心弾ませ、楽しく会話をしながら順番がくるのを待っていました。ところが、何か様子がおかしい…。渋谷さんが状況を確認すると、なんと機材不備(?)のため調整中ということが判明。とうとうその日は出国未定のまま「飛ばない」ということが決まってしまいました。翌4日、9時45分ころからまたあの長蛇の列に並びました。出発時刻の12時を超えていたけれど荷物を預けることができ、あとは出発時間がわかるまで待つことに。お昼ごはんを食べた後待っていると、なんと「欠航」というお知らせが！どうにか違う経路でも出発できないか考え、渋谷さん、五島さんを中心に交渉に入りました。

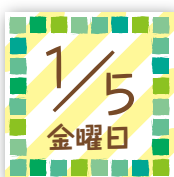


その間、時間ももったいないと思い、嶺元、銅道、磯谷で空港にいるマレーシアの方にインタビューをすることになりました。まずは、英語の堪能な銅道先生が話しかけました。すると、笑顔で対応していただけだったので、その後はすべて英語で会話をしました。

おすすめ料理は「ナシ ラマ」だそうです。その話からお米の話になり、「日本米はおいしい。マレーシアはいろいろな国のお米があるけれど、日本のお米が最高！タイ米は、少し臭いがするので、食べにくい」ということを教えてくれました。会話がはずみ、自分たちは右手の指で食べるがインド系の人達は手のひらまで使うということも話していました。とても有意義なひと時を過ごすことができました。

その後、やっと次のフライトの目途がたったようで一安心。空港を出て見上げた空に銅道先生が一言。「月がきれい」

こんなにきれいな夜空の中、飛べない悲しみを胸に抱えつつ、明日こそ飛べることを信じて眠りにつきました。(磯谷)



遅延2日目の朝を迎える。9:00にロビーミーティング。今日の動きの確認と、その他困っていることなど相談。6日のスケジュールの確認。早朝にコタキナバルに着くが、その日は多少無理しても予定をこなすことを確認。しかし、現地についてみないとわからない部分もある。実際、まだ、現地に到着できるのか怪しい？ 10:15有志で成田山新勝寺へ。一体今日はどのような運命になるのか。良きアラ-の思し召しを祈るため、成田山新勝寺へ。もうこうなったら、イスラム教でも仏教でも、どこぞの神様にもお願いしたい気持ちになる。新勝寺は、初詣客で混雑していたが、日本のお正月を感じられてとてもよかった。日本を紹介できるものを手に入れられた先生もいた。12:00再びロビーミーティング。小学校グループは、それぞれの興味のある部分を共通理解した。シャトルバスで空港へ。JALの対応が神対応すぎて、一同感動。17:00すぎ、ようやくチケット発券され、出国へ。渋谷さんは、上海行きだけでなく、その後のすべての便のリコンファームを出発30分前まで、JALとMASのカウンターで入念に行っていた。渋谷さ



んの執念を感じた。10:05上海到着。乗り換え手続きに多少手間取るものの、なんとか搭乗手続きを終えたのは、1月6日に日付が変わったころだった。

今回の件で、MASは確かに悪いが、いろいろなことがうまくいかないのは、どこでも起こりうることもある。この一件で、MASへの不信感だけが増幅されるのではなく、マレーシア航空はいいとしても、マレーシアのホスピタリティ、違いや良さに目を向けたいものである。決してマレーシアを嫌いにならないで。(一條)

思いがけない成田での二泊を経て、集団としての絆を深めることができた私たちは、上海の浦東空港経由でついにマレーシアに入国しました。当初予定されていたクアラルンプールではなく、コタキナバル空港へ。



3台のワゴンに乗り、コタキナバルウェットランドセンターへ向かいました。道中、トイザラスや日立など日本の会社のロゴを見つけて「マレーシアの中の日本」に若干テンションが上がる私たち。今後どんな「日本」が見られるのか楽しみにもなりました。



コタキナバルウェットランドセンターに到着しました。街中に突然の森。ラムサール条約に登録されたばかりのホットスポットを、青年海外協力隊の渡辺さんが案内をしてくれました。たくさんのマングローブ。中に入ると、カチッカチツという音が響いていました。どうやらテッポウエビが爪を鳴らしているようです。その他にもカニなどの生物がたくさん生息しています。しかし、流れてくる生活排水には、ゴミも散乱しています。マングローブは炭素を吸収する働きがあるようで、細い枝に大人が乗ることもできます。また、敷地の管理をしているアブラハムさんにもお会いし、インタビューをすることができました。仕事に高い誇りをもっており、とてもすてきな顔をして仕事をされていました。一通り散策し、戻ろうとすると、突然笛の音が聞こえました。不法に侵入し、生き物やペットボトルを捨てていってしまうようです。「守る人」と「住民」の間の壁は高いように感じました。



その後、マングローブを植林しているところへ向かう間にスコールが。事前研修で、少しの時間で上がると聞いていたので、待っていたのですが、待てど暮らせど止みません。雨の中植林することに決めました。マングローブの苗はずっしりと重いものでした。泥の中に入り、一つ一つ植えて行きます。合計で75本の苗を植えることができました。

その後、マレーシア事務所の方とサバ州で活躍されているJICAボランティアの方々との懇親会へ。サバ州にはたくさんの民族がおり、その民族料理がバイキング形式で味わえるレストランでした。味は、香辛料なのか、言葉に表すのが難しい感じの独特感。実際に料理を作る体験をさせていただいたり、ショータイムで伝統的な踊りや吹き矢に挑戦している方もいました。また、このお店の売り(?)で、イモムシが食べられます。サゴ虫という、将来はゾウムシになるイモムシだそうです。素揚げしたものを勇敢な男性たちがパクリ。ある人に言わせると、コーンスープのような味で美味しいらしいです。(未だに信じていません。) JICAの方々ともたくさん話ができて、とても楽しい懇親会になりました。(松井)





今日はコタキナバルの市内視察。午前はサンデーマーケットへ。環境が変わると、行先だけでなく道中も楽しいもの。派手な絵が描かれた歩道橋の階段、雨除けの屋根のついた歩道など見慣れないものがたくさんあった。



マーケットに着くと両側に露店がずらり。人、物、言葉、におい、様々な文化が行き交い、狭い道はたくさんの人でごった返していた。商品も様々。ドラえもんやキティちゃん、ミニオンなどのキャラクターグッズ、カエルの

のままの財布、乾燥ナマコに乾燥ヒル、ド派手なケーキや緑のゼリーの入った豆乳、雑貨から動物に至るまでバラエティ豊かだ。それぞれに教材づくりの観点で頭をひねりながらお買い物。セパタクローのボールだったり、笛やコマといったおもちゃだったり、実際に手に取ると授業へのイメージも膨らむ。マーケットは買い物だけでなくコミュニケーションも楽しい。店員さんたちは私たちの質問に嫌な顔一つせず答えてくれたり、写真撮影に応じてくれたりした。

昼食は、某テレビ番組でも紹介されたRESTORAN KHALISAHというお店へ。前日の民族料理で心が折れかかっていた人も、ここでの料理はおいしく食べることができた。

午後は、サバ州立博物館とフローティングモスクへ。博物館には、民族の文化や歴史について、衣装や動物などの展示があった。屋外にはヘリテージ・ビレッジという伝統家屋を再現したエリアがあり、大変見応えのある



ものだった。フローティングモスクでは、女性メンバーは肌を隠すための衣装（ヒジャブ）をレンタル。衣装を着ると、どこからどう見てもマレー女性。これなら男性メンバーの前を通り過ぎても気づかれないだろう。

夕食は海鮮レストランへ。水槽の中を元気に泳ぐ食材を前に心躍りつつ注文。ロブスターやクエ、赤貝、エビ、カニなどを堪能。日本ではなかなか食べられないものもあり、おいしく貴重な体験となった。(廣川・銅道)



コタキナバルのホテルのロビー集合は8:30。コタキナバルに到着して3日目の朝。みなさんお疲れモードかと思いきや、おめめパッチリ！さすがだなあと一人で感心。今日のメインディッシュは2つ！サバ大学訪問&生物多様性クルーズ。3つのバンに分かれて、いざ出発。運転手さんは、みんな運転が荒い。飛ばしまくり。でも、現地ドライバーはいつ

つでも明るい！道に迷って、なかなか目的地にたどり着けなくても、爆笑していました。いいなあ、マレーシア文化。

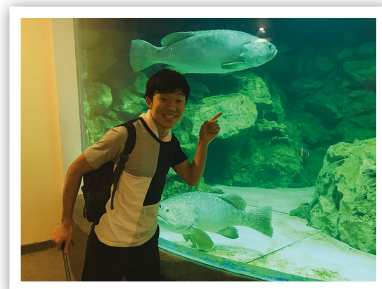
ようやくたどり着いたサバ大学でお出迎えしてくれたのは、大学の教授と、熱帯生物保全研究所ITBCに勤めている、京都生まれの立木さん。まず、なるほど・ザ・ワールドだったのは、サバ州を北海道に例えながら説明していただいたこと。サバ州は北海道と形や地がよく似ている。コタキナバルは札幌。東に行けば行くほど野生動物が増えるのも北海道に類似。サバ州では、オイルパーム農園も東側に広がっている。

JICAさんとITBCは、15年の付き合いだそうで、二人三脚で行ってきたマレーシアの環境保全に関わる4

つのプロジェクトを立木さんが紹介して下さった。立木さんの話を聴いて、環境保全の難しさや必要性を改めて認識させられた。どうして環境を守らなければいけない？生き物を大切にしなければダメなの？おそらく世界には、この質問に答えられない人の方が多いと思う。正直に言うと、今の自分も、まだまだ無知なのだと思う。しかし、真剣に考えることはできる。何かしようとすることはできる。今回の立木さんの話が、私にとっての環境教育の本当のスタートになった。立木さんは、オイルパームの話もして下さった。本来は1月5日（金）のプトラ大学訪問の際にオイルパームについて詳しく紹介していただく予定だったが、マレーシア航空のおかげで全てキャンセル。



マレーシアでは、オイルパーム産業は悪とされているらしい。環境保全とは真逆。しかし、もうオイルパーム産業がマレーシアの主要産業になってしまっている以上、この流れは止められない。日本には無関係？とんでもない。過去のマレーシアの森林伐採は、主に日本への木材輸出のために行われた。たくさんの森林がマレーシアから失われていった。森林減少により、輸出する木材の底が尽きそう…。その代わりとして注目されたのが、このオイルパーム産業だ。私は日本の子どもたちに、この事実を伝える義務がある。また、スモールホルダーと呼ばれる小さなオイルパーム農園が、象に食い荒らされて一晩で消滅することがあるという事実にも、非常に驚いた。象を守りたい人もいれば、象を殺したい人もいる。何が正解といえないことも、環境保全の難しさなのだろう。



お話を聞いた後は、実際にボルネオ象の完全標本を見たり、サバ州で見られるカブトムシや蝶の標本庫を見たり、動物の標本を見たり、標本、標本、標本三昧。日本では絶対に見えないでしょ！という色鮮やかな少し気持ちわ……素敵なきり物たちをたくさん見ることができた。そもそも、大学の構内に博物館があるって、すごい。水族館もあった。ウミガメが優雅に泳ぐ姿は、とても神秘的。クエもいた。クエは前夜に食していたので、とても美味しそうに見えた。



その後、一度ホテルを経由し、クルーズ会場へGO！船に乗り込み、いざ出陣！テングザルを血眼になってさがすクルーたち。幸いなことに、テングザルをたくさん見ることができた。ボスザルも見ることができたし、子ザルも見ることができた。とても可愛くて、命を感じた。夜のクルーズでは、蛍を見た。木いっぱい瞬く蛍の光は、とても幻想的で、命を感じた。サバ大学で教わった環境保全の意味は、ここにあると思った。命は、本当

にかけがえのないもの。人間、動物、植物。川にだって命はある。自然を守りたい、守ろうと思う気持ちをたくさんの子供にも広めたい。船酔いしながらも、必死にそんなことを考えていた。そんな自分を、水面から顔を出していた大量のワニちゃんたちが、暗闇で見つめていた。長々と書きましたが、それでも全然足りません。そのくらい、充実した一日になりました。(堀口)





いよいよ、ホームステイの日がやってきた。心配は、トイレ？シャワー？言葉？持ち物？虫？だったのでは。まず車で2時間、少し標高の高い場所に位置するクロッカーレンジ公園へ。市街より気温が低く風が気持ちいい。そこでは青年海外協力隊として活動する永岡さんと出会う。Community Use Zoneの考え方や自然と共生する手法の模索など、これまでの取り組みを伺った。中でも「相手と向き合うのではなく、同じ方向を見る。信頼関係を築きながら本当に必要なものは何かを探す。」という言葉が忘れられない。また、この言葉の意味をモンゴルバル村で体感することになるうとは…。



公園の説明をする永岡JV



活動報告



クワガタ発見!!

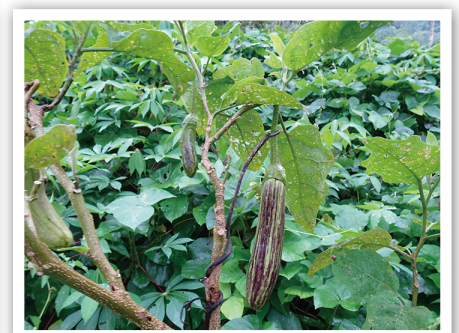
昼食後はモンゴルバル村へ向けて出発！パームヤシのプランテーションを抜け田舎道を走ること約1時間、無事に到着。センターにて村のお母さんが作った手工芸品を購入後各ホームステイへ分かれていった。私がお世話になったのは、26歳のお母さん、33歳のお父さん、5歳と4歳の娘がいるリニーさん宅。到着すると松井さんはすぐに子ども達の心をつかみ仲良くなっていた。（さすが小学校教師！）その際に私はお父さんと畑散策。カカオやランブータン、ドリアンなどの樹木を紹介してもらった。私はそれに満足できず、どうしても野菜畑が見たいとわがまを言って小学校近くの水田農家へ連れて行ってもらい、突撃インタビューを決行。トタンで囲われた小さな畑にナス、トマト、チリ、ショウガ、マメ、葉物がぎっしり栽培されていた。米も野菜も家族と親戚で食べる分だけの栽培で販売はしていないそうだ。彼女は32歳で子どもが2人。「農業の魅力は家族全員で作業ができるところ。小さな畑でも家族と親戚が食べていけるので問題は何も無い。自分の子どもにも農業を継いで欲しい。」と。彼女と話をすることで、食料を生産できる唯一の産業“農業”は人の心を豊かにする力があることを改めて実感した。



川の水を使用した水田



野菜畑



ナス

夜は、小学校にて歓迎会を開いて頂いた。まずは自己紹介。歌、倒立、忍者寸劇、など我々の個性が出ていた(笑)。それから民族舞踊の披露に校長先生と謎のダンシング♪これは私個人の感想だが、硬く覆われた

自分の殻を破り、大人の階段（初老への階段？）を一段上った気がした。最後はバンブーダンス！私たちも一緒に挑戦。青年がステップを丁寧に教えてくれ、楽しい時間を過ごすことができた。さらには、楽器の演奏や竹の持ち手までやらせてくれた。共に踊り、笑い、同じものを食べることで言葉や文化が異なっても通じ合える事を実感した。



リニーさん宅

そして何よりこのような熱い歓迎をして頂けたのは、この土地で地域の方々と同じ方向を見て信頼関係を築いてきた永岡さんの存在があるからだ。このことを決して忘れてはならないと思いながら……地元のお酒を飲む私でした！！

歓迎会の後はそれぞれのお家へ帰宅。私、松井さん、園山さんの3人で枕を並べ、若き頃の修学旅行を思い出す密着度でレディーストーク♪そろそろ就寝…といったところで窓から猫が侵入し、松井さんを直撃！！特段驚くわけでもなく、落ち着いている私たち。これは村の日常に体と脳が順応しているのだと確認したところで…濃厚な一日が終わった。（嶺元・本間）

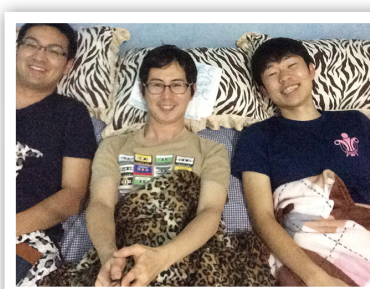


歓迎会終了！！



3人で川の字で寝たがぐっすり眠ることができた。朝はニワトリの鳴き声で目覚めた。目覚まし時計がないと起きられない自分にとって爽やかな目覚めだった。

朝ごはんをいただき、ゴムの樹液採取体験をした。ゴムの木は森のいたるところにあり、見える範囲ではどの木も採集用のペットボトルがついているようだった。くわのような器具を使い、慎重に木に傷をつけ樹液の流れる道を作った。手本を見ると簡単そうに見えたが、結構力のいる作業で大変だった。樹液の匂いは強烈で、次の日まで手に匂いが残っている。私たちの生活に欠かせないゴムを生産する苦労や村の人々の苦労を感じることができた。



小学校の授業見学では、黒板を使い先生がマレー語を教えているようで日本の授業風景とあまり変わらなかった。しかし、教科担任制、授業が午前には終わるなどの違いも見られた。日本の文化交流では、スライドで日本を紹介したところ雪の映像で歓

声が上がり村の人々は驚いていた。日本の遊び紹介では、けん玉、福笑い、縄跳び、豆つかみ、習字、折り紙、どのブースも盛り上がっていた。

昼食を学校でいただき、私のホームステイ先であるラマツさん宅へ戻った。ラマツさん宅は、いつも笑顔で優しいお母さん、英語が話せてクールな20歳のアトさん、わんぱくな9歳のリビー、街のレストランで働いているお父さんの4人家族。とても温かい家庭だった。近所にいる子どもたちも自由に家を行き来してみんなで遊んだ。「暑いよー！」と言ったら川に連れていかれ一緒に水浴びもした。シャワーがないなど多少不便なところはあったが、村の人の親切さに触れることができとても優しい気持ちになれた。国境を越えて、人との繋がりを大切にしたい。(井上・佐久間)



今日はコタキナバルの大規模な小学校にて視察・交流を行いました。

小学校へ着きバスを降りると早速民族音楽の生演奏でお迎え！更に建物のあちらこちらから子どもたちが手を振って熱烈な歓迎をしてくれ、一同感激しました。



まずは特別支援学級へ。在籍児童は63人で支援のニーズごとのクラスに分かれています。パソコンの動画を見ながら一緒に運動したり、コーランに使用する文字を自分のペースで学習していました。



次に普通学級の授業見学。四年生の音楽では、音階についての学習を行っていました。マレーシアの先生も、日本の先生と同じで、例え話を交えながら楽しく授業を行っていました。1月に入学したピカピカの一年生は、算数で数の学習を行っていました。学習の習熟度別にクラスがわかれていて、子どもたちは自然と教え合いながら学習していました。



それから、日本の遊びで子どもたちと交流しました。折り紙ブースでは、作って遊べる折り紙や紙飛行機が人気でした。

最後のマレーシアの先生たちとの交流では、サバ州のマレー系36民族それぞれの民族衣装を紹介してく

だきました。その後質問コーナーがあったのですが、なんとマレーシアの先生から日本についての質問(かなり際どいもの)が相次ぎ一同はたじたじに…。その後も昼食をご馳走になりながら交流を楽しみました。また、日本の視察は初めてとのことで、地元のテレビ局も取材に来ていました。

視察の後は、ついにクアラルンプールへ。視察の序盤が頭をよぎり、ちょっとドキドキしながら空港へ。無事飛行機が翔び立ち、ついに最終日をむかえます。(矢吹)



9:00、クアラルンプール市内視察へ。バスの車窓からは、ツインタワーをはじめ、近代的な高層ビル立ち並ぶ姿に、ただただ圧倒される。毎週金曜日は、イスラム教礼拝の日。男性は午前中仕事を切り上げ、モスクへと礼拝へ向かう。そのため、市内は大渋滞に。公共交通機関は整備されつつあるが、渋滞の緩和には、公共交通機関の更なる発達と市民の利用促進が大きな課題という。

イスラム教寺院「マスジャット・ジャメ」に到着したが、休館日。寺院の周辺を散策し、クアラルンプールの語源である「泥が合流する場所」へ。

10:30、セントラルマーケット到着。ここは、マレーシアの民芸品や土産屋が並ぶマーケット。足りなかった教材や土産を購入。マレーシア土産として人気のあるナマコ石鱈は、多くの先生方が購入されていた。民族楽器であるコンパンやケーンを購入する先生も。飲食店では、北海道チーズケーキというお店が出店していた。

13:00、チャイナタウンへ。三国志にも登場する関羽を祭った寺院「関帝朝」、精微な彫刻が施された塔が見応えのあったヒンドゥー教の寺院「スリ マハ マリアンマン」を訪れる。このチャイナタウンの中に、それも徒歩数分の範囲内に、ヒンドゥー教の寺院があるのは多民族国家の象徴の一つであったように思う。

14:30、KCLL (ショッピングモール) 到着。最後の教材、お土産購入。マレーシアの中に日本企業である、紀伊国屋、ASICSショップ、イセタンなどの出店があり、マレーシアの中の日本を感じる一場面であった。

夕方、JICAマレーシア事務所にて研修報告。府川所長の挨拶、研修員を代表して一條団長より研修の成果報告、研修員より今後の授業づくりの方向性について報告があった。改めて、有意義で刺激的な充実した研修であったことを感じるとともに、帰国後の授業づくりに向けて、更に身の引き締まる思いとなった。

最後に、府川所長、研修中に同行していただいた渡辺さん、深澤さん、園山さんをはじめとするJICAスタッフを交えた懇親会。

マレーシア料理を堪能するとともに、スタッフの方々とこれまでの研修の出来事を振り返り、非常に和やかな雰囲気での楽しい時間となった。

21:00、空港到着。毎回不安となる搭乗手続きはスムーズに行われ、搭乗。一安心。成田へ出発。(高木)

